

任意接種ワクチンの小児（15歳未満）への接種

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

2015年11月作成

2016年10月改訂

2017年9月改訂

2019年11月改訂

2020年1月改訂

2020年10月改訂

2020年11月改訂

2021年5月改訂

基礎疾患の有無や海外渡航などの状況により、特に接種が奨められる場合のある任意接種ワクチンの接種推奨すべき対象と接種回数を以下に示します。

なお、各ワクチンともに、接種不適当者に該当する者は対象から除きます。

また、健康保険適用に関しては、別途記載します。

対象となるワクチン

	ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
任意接種	23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン (PPSV23)	2歳以上	2歳未満	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>2歳以上の全ての肺炎球菌感染症ハイリスク患者（☆）</p> <p>☆慢性心疾患（チアノーゼ性心疾患、慢性心不全）・慢性肺疾患（高用量の経口ステロイド投与を受けている気管支喘息含む）、糖尿病、髄液漏、人工内耳、鎌状赤血球症などの異常ヘモグロビン症、脾機能低下症、HIV感染症、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、免疫抑制療法や放射線治療を受けている者（悪性腫瘍性疾患、白血病、リンパ腫、固形腫瘍）、原発性免疫不全症</p>
				<p><u>接種回数</u></p> <p>最後のPCV13接種後8週間以上あけてPPSV23 1回接種。5年後にPPSV23追加接種を検討。</p> <p>註1：PPSV23既接種者でPCV13未接種の場合 最後のPPSV23接種後12か月以上あけてPCV13を1回接種。（PPSV23については最後の接種から5年以上経過していれば再接種可能。）</p> <p>註2：2～4歳児に対するPCV13は定期接種。</p> <p>註3：5歳児に対するPCV13接種は任意接種となるが、状況により特例措置により定期接種として接種することが可能。6歳以降は任意接種。</p>

ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
13 価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV13)	2 か月以上	なし	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者。具体的には、「慢性的な心疾患、肺疾患、肝疾患、又は腎疾患」、「糖尿病」、「基礎疾患若しくは治療により免疫不全状態である者又はその状態が疑われる者」、「先天的又は後天的無脾症（無脾症候群、脾臓摘出術を受けた者等）」、「鎌状赤血球症又はその他の異常ヘモグロビン症」、「人工内耳の装用、慢性髄液漏等の解剖学的要因により生体防御機能が低下した者」、または、これ以外で医師が PCV13 接種を必要と認めた者。</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>1 回接種。（筋肉内注射）</p>
4 価髄膜炎菌ワクチン（ジフテリアトキソイド結合体）（MCV-D）*	2 歳以上 5 歳以下	2 歳未満	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>① 髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する 2 歳以上の者</p> <p>② 9 か月齢以上のハイリスク患者（補体欠損症・無脾症もしくは脾臓機能不全、HIV 感染症）</p> <p>③ 9 か月齢以上のエクリズマブ・ラブリズマブ治療患者（発作性夜間ヘモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症候群、全身型重症筋無力症）</p> <p>④ 学校の寮などで集団生活を送る者</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>1 回接種。</p> <p>註 1：添付文書上は、接種上の注意として「2 歳未満の小児等に対する安全性及び有効性は確立していない」との記載あり</p>
A 型肝炎ワクチン	全年齢	なし	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>A 型肝炎流行地域へ渡航する 1 歳以上の者（滞在期間にかかわらず）</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>2～4 週間隔で 2 回接種（初回接種）、初回接種後 24 週をあけて追加接種 1 回</p>
狂犬病ワクチン	全年齢	なし	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>① 狂犬病の流行地域に渡航する場合で、動物との接触が避けられない、又は近くに医療機関がないような地域に長期間滞在する者（曝露前免疫）</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン</p>

ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
			<p>3回接種：0（1回目接種日を0とする）、7、21日又は、0、7、28日</p> <p>② 狂犬病が疑われる動物による咬傷などの曝露を海外で受けた者（曝露後免疫）</p> <p><u>接種回数</u> 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン</p> <p>4回接種：0（接種部位を変えて、2箇所につき1回ずつ、計2回）、7、21日</p> <p>5回接種：0、3、7、14、28日</p> <p>6回接種：0、3、7、14、30、90日</p>
黄熱ワクチン	9か月以上	9か月未満	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>① 国際保健規則（International Health Regulation, IHR）にもとづいて、入国（トランジットを含む）に際して接種が要求される国へ渡航する月齢9か月以上の者</p> <p>② 黄熱流行地域へ渡航する月齢9か月以上の者（滞在期間にかかわらず）</p> <p><u>接種回数</u> 1回接種。</p>
弱毒生おたふくかぜワクチン	生後12月以上のおたふくかぜ既往歴のない者	1歳未満	<p><u>推奨接種対象者</u> 1歳以上の全てのムンプス未罹患小児。</p> <p><u>接種回数</u> 2回接種。</p> <p>註1：標準的な接種時期 1回目：生後12～24か月 2回目：小学校入学前1年間</p>
季節性インフルエンザワクチン	6か月以上（一部は1歳以上）	6か月未満（一部は1歳以上）	<p><u>推奨接種対象者</u> 全ての6か月以上の小児。</p> <p><u>接種回数</u> 毎年接種。（6か月～12歳 2回/年、13歳以上 1回/年）</p>
9価ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン	9歳以上の女性	9歳未満の女性 男性	<p><u>推奨接種対象者</u> HPVワクチン未接種の9歳以上の女性で接種を希望する者。（2価HPVワクチン、4価HPVワクチンは定期接種として接種可能）</p> <p><u>接種回数</u> 3回接種。 筋肉内注射（0.2.6か月）</p>

ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
4価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン	9歳以上	9歳未満	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>HPV ワクチン未接種の9歳以上の男性で接種を希望する者。</p> <p>(小学校6年生から高校1年生相当年齢の女性は定期接種として接種可能。それ以外の年齢の女性は9歳未満を除いて任意として接種可能。)</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>3回接種。</p> <p>筋肉内注射(0.2.6か月)</p>

\* : MCV-D と PCV13 の両方の接種が必要な場合、同時接種は、免疫原性に影響を与える可能性がある。

#### 健康保険適用のあるワクチン

##### 1. 破傷風トキソイド

- ① 外傷後の破傷風発症予防で使用した場合

##### 2. 狂犬病ワクチン

- ① 曝露後(咬傷後)の発症予防で使用した場合

##### 3. 4価髄膜炎菌ワクチン(ジフテリアトキソイド結合体)

- ① エクリズマブ・ラブリズマブ投与患者に使用する場合

##### 4. 23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン

- ① 2歳以上の脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防」の目的で使用した場合

##### 5. B型肝炎ワクチン

- ① B型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)
- ② HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)
- ③ 血友病患者に「B型肝炎の予防」の目的で使用した場合(平成2年3月30日付 事務連絡)
- ④ 業務外で、当該負傷を原因としてHBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液による汚染を受けたことが明らかで、洗浄、消毒、縫合等の処置とともに抗HBs人免疫グロブリンの注射に加え、本剤の接種が行われた場合
- ⑤ 既存の負傷にHBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液が付着し汚染を受けたことが明らかで、上記④と同様の処置が行われた場合